

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	商業科教育法B(Commercial Education B)	授業コード	K002651
担当教員名	岡部 勝成		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	必修(商業)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	日本の学校教育が変わろうとしている。その状況を商業教育を通して学んでほしいと思います。		
受講心得	講義には必ず出席してください。欠席すると模擬講義に多大な影響を及ぼします。		
教科書	商業科教育法—21世紀のビジネス教育— 吉野弘一著 (実教出版) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(実教出版)		
参考文献及び指定図書	適宜、参考図書を紹介します。		
関連科目	商業科教育法A		

授業の目的	<p>高等学校における商業に関する学科の教育課程の編成と指導計画の作成過程と手法を学習します。さらに、商業諸科目の学習指導技術に関する諸問題について研究し、将来高等学校商業科担当教員になるために必要な資質を養成します。とりわけ、下記のとおり重点項目として掲載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で学習する商業科目について、その学習指導法や評価の方法などを理解します。 ・学習指導案の導き方や学習指導実践などによる指導技術の修得を目指します。
授業の概要	<p>前半は商業に関する学科の内容や教育課程の編成について学習します。</p> <p>後半は教科指導の実際について学習するとともに、学指指導案を作成し、学習指導を体験し授業研究を試みます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：学習指導要領・商業に関する学科の内容(3)ビジネス分野 ビジネス分野(経営、マーケティング等)に関する項目を概説し、実社会との関連性にも言及します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第2週：学習指導要領・商業に関する学科の内容(4)会計分野 会計分野(簿記、財務、管理、監査等)に関する項目を概説し、資格取得や実社会との関連性についても言及します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第3週：学習指導要領・商業に関する学科の内容(5)ビジネス情報分野 ビジネス情報分野に関する項目を概説し、資格取得や実社会との関連性についても言及します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第4週：学習指導要領・教育課程編成の留意点(1)指導計画の作成 商業科教育における指導能力醸成を図るため、その基礎となる指導計画の作成を説明します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第5週：学習指導要領・教育課程編成の留意点(2)教育課程の編成 商業科教育における歴史的変遷やその背景、さらには課題と展望について説明します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第6週：学習指導案の意義と作成 商業科教育法における模擬授業ができるレベルになるよう、その意義ならびに作成の指導を行います。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第7週：教科指導上の問題点 日々変化する商業科教育法に関する法律や制度等を中心に説明します。	配布資料、質疑応答形式のディスカッション
第8週：教科指導計画 短期・中期・長期視点に立脚した商業科教育法の計画の留意点等を説明します。	模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第9週：教科指導の形態	模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。

さまざまな指導計画が混在するなかで、どのような手法・形態が有効であるのか概説します。		め、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第10週：教科指導の技術と評価 教科指導における技術・評価は、とりわけ模擬授業の精度に左右されるため、その準備の重要性について説明します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第11週：学習指導案の作成 実践形式の導入部分として、実際に学習指導案を作成かつその活用方法を中心に説明します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第12週：学習指導実践(1)マーケティング分野等 模擬授業を実践するために、原稿、指導案、板書計画等を作成し、かつ模擬授業を行い、その評価、改善点等について言及します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第13週：学習指導実践(2)ビジネス分野等 模擬授業を実践するために、原稿、指導案、板書計画等を作成し、かつ模擬授業を行い、その評価、改善点等について言及します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第14週：学習指導実践(3)会計分野等 模擬授業を実践するために、原稿、指導案、板書計画等を作成し、かつ模擬授業を行い、その評価、改善点等について言及します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第15週：学習指導実践(4)ビジネス情報分野等 模擬授業を実践するために、原稿、指導案、板書計画等を作成し、かつ模擬授業を行い、その評価、改善点等について言及します。		模擬講義の精度向上のため、原稿、指導案、板書計画等の添削指導を行う。
第16週：期末試験 15回までの講義内容を試験範囲とします。試験時間は60分、筆記用具以外はすべて持ち込み不可とします。		配布資料、試験問題、解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教育課程の編成による教育計画の必要性を十分理解できる。
【知識・理解】	学習指導要領が示す指導内容が十分理解できる。 教育課程の編成による教育計画の必要性を十分理解できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	商業科教育法について、とりわけ模擬授業をとおして法律と実践の関係を概説できる。
【思考・判断・創造】	商業科教育法について論理的思考ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	60点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			10点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	模擬授業実施のために作成する原稿、指導案、板書計画、発問書、練習問題、解答等の内容により加点します。
発表・その他 (無形成果)	授業のなかで、適宜質問をし、その解答に対して優れた学生には加点することがあります。また、模擬授業も内容によって加点することがあります。